

名証通信

Communication Letter



◇◇ 若年層の株式投資に対する意識調査 ◇◇

名古屋証券取引所は、2010年から毎年、当取引所の知名度向上と名証上場銘柄への投資拡大を図るため、名証市場に上場している「株式」と「ETF」を投資対象としたバーチャル取引形式のコンテスト「名証株式投資コンテスト」をインターネット上で開催してきました。第9回目となった2018年度は、若年層の金融リテラシー向上及び金融経済教育の充実の一助となることに、より重点を置く目的で参加対象を学生に限定し、2018年10月22日（月）から12月10日（月）まで、7週に亘って開催しました。



開催後、参加者へのアンケート調査を実施しましたので、その結果をもとに、若年層の株式投資に対する意識についてとりまとめました。

名証株式投資コンテストの概要

「名証株式投資コンテスト」は、仮想元手資金300万円をいくらまで増やせたかを競う個人戦の部と、3～10名でチームを編成し、チーム全体の仮想元手資金（1人あたり300万円）の収益率を競うチーム戦の部で構成され、全国からおよそ1,440名（個人戦の部898名、チーム戦の部540名（27校、154チーム））の学生が参加しました。

ルールは、投資未経験者でも気軽に参加することができるよう、取引所市場の売買終了後に当日の終値のみで疑似売買を行うという極めてシンプルなものですが、さらに、注文すれば必ず終値での売買が成立したものと扱うなど、実際とは異なるルールになっていますが、これは、いくらで投資できるのか、株価はどの程度変動するのか、といった初歩的なことから学んでもらうためです。

本コンテストの結果は、個人戦の優勝者が元手資金300万円を789万円余りに、チーム戦の優勝チームは元手資金の増加率が250%超と、ルールの性質上、現実では考えられない成績となりましたが、上位入賞者は上場会社の事業内容等はもちろん、日々の適時開示情報もチェックするなど、熱心な企業研究と投資先の検討を行っており、株価変動の要因を学ぶきっかけになったものと考えています。



【表彰式後の記念撮影】

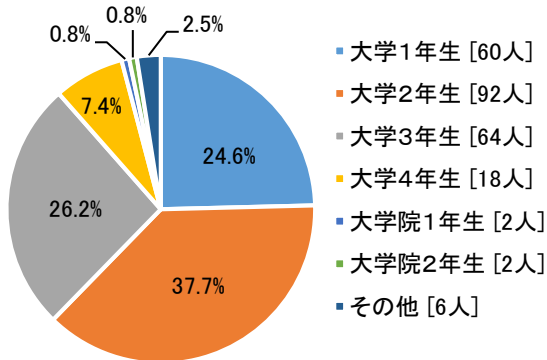
また、個人戦、チーム戦とも、成績上位の皆さんを招待して表彰式を開催、当取引所の竹田正樹社長から表彰状と賞品を贈呈しました。

表彰式には、遠方からも多くの皆さんに名古屋まで足を運んでいただきました。

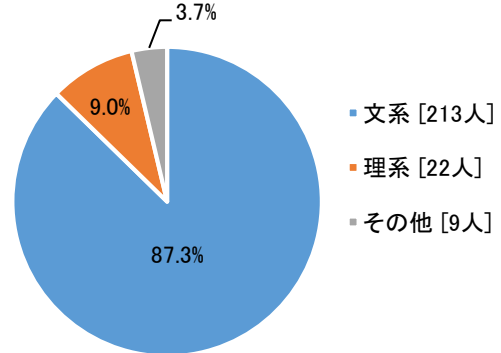
参加者へのアンケート調査結果

本コンテスト終了後、参加者へのアンケート調査を実施しましたので、今回は、その中から一部をご紹介します。（n=246）

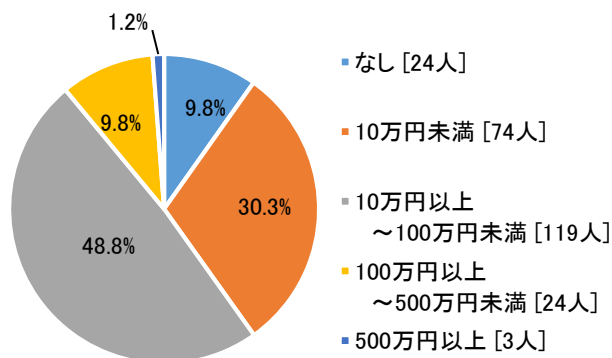
Q. 学年は？



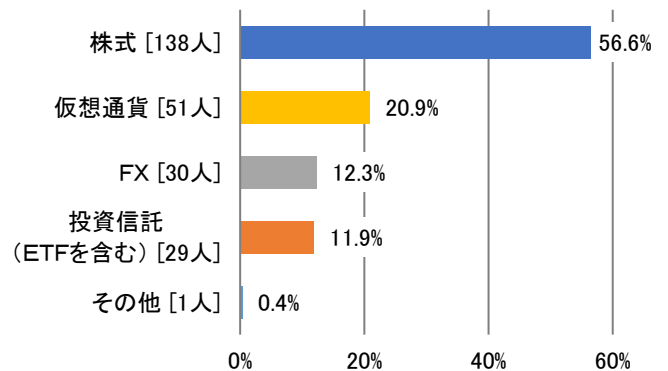
Q. 学部は？



Q. 現在の貯蓄額は？



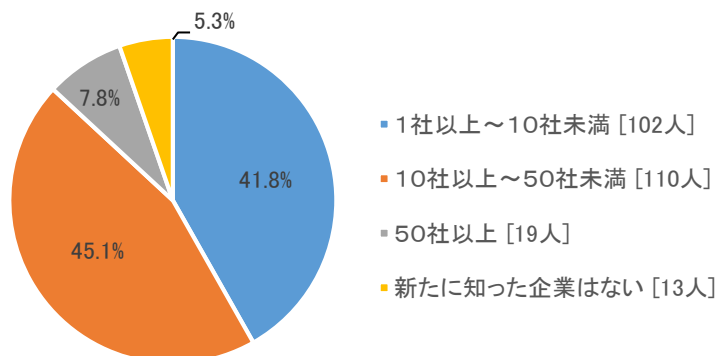
Q. 投資経験のある商品は？



投資経験のある商品を聞いたところ、5割超の学生が株式への投資経験があると回答しました。

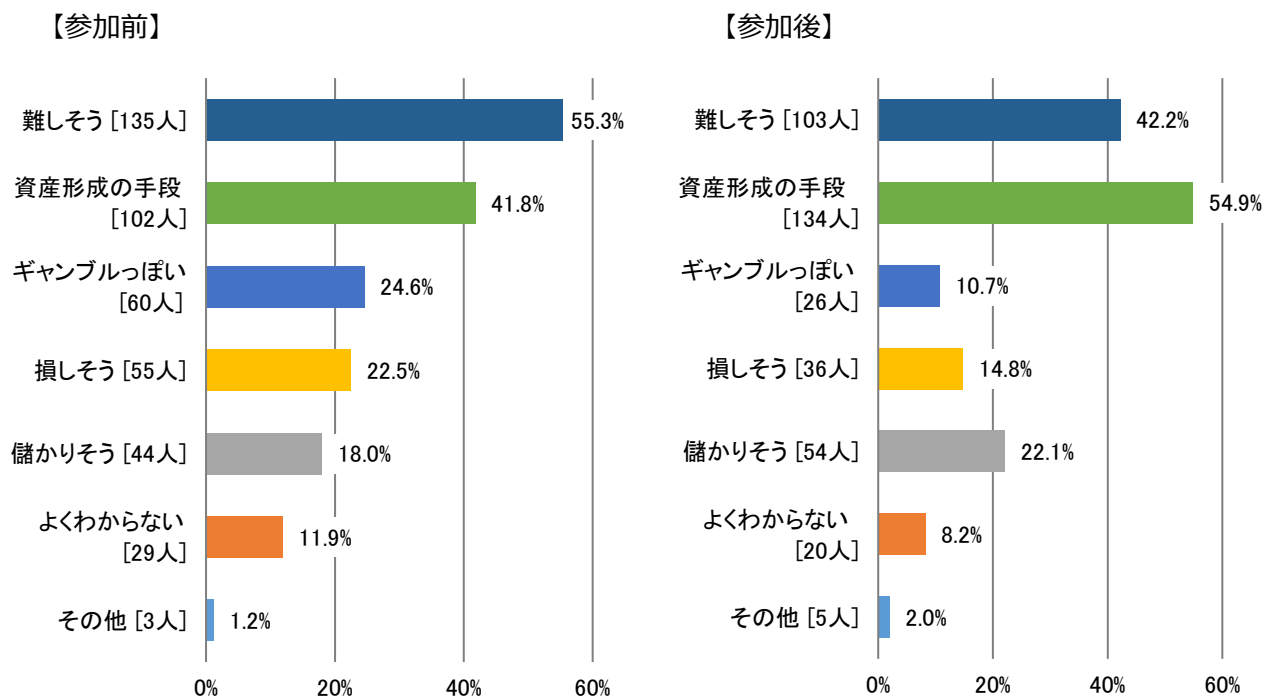
また、時代を反映し、仮想通貨への投資経験についても、2割を超える学生が経験していることが分かりました。

Q. このコンテストに参加して、新たに知った名証上場企業はありましたか？



10社以上の名証上場企業を新たに知った学生が5割を超えるなど、本コンテストの実施目的の一つである、名証上場企業の認知度向上につながっているといえます。

Q. 株式投資のイメージは、コンテスト参加の前後で変わりましたか？

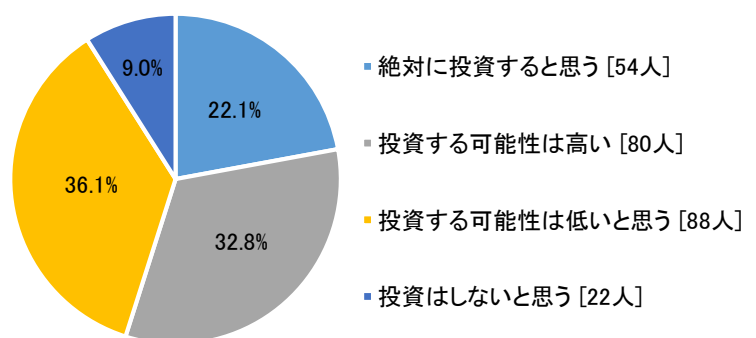


本コンテストが単純なルールであることも影響していると思われますが、「難しそう」というイメージは 55.3%から 42.2%へと減少し、一方で、「資産形成の手段」との認識を持つ学生が 41.8%から 54.9%へと増加しました。

また、「ギャンブルっぽい」が 24.6%から 10.7%へ減少したことも、興味深い結果です。

Q. 将来、株式へ投資しますか？

現在も株式投資を行っている学生を含め、「絶対に投資すると思う」との回答が 22.1%、「投資する可能性は高い」との回答と合わせると、5割を超える 54.9%を占めました。一方、「投資はしないと思う」との回答は 9.0%にとどまったものの、「投資する可能性は低いと思う」と答えた学生が 36.1%と最も多いという結果となりました。



「絶対に投資する」と「投資する可能性は高い」とした理由は、「資産形成に活用したいと思っているから」など、資産形成の手段の一つとして認識している趣旨の回答が最も多く、「投資しない」と「投資する可能性は低い」とした理由は、「リスクがある」、「損をするのが怖い」といったリスク面の理由と「難しいと感じた」という理由がほとんどを占めました。

Q. 学生の皆さんに株式投資への興味を持ってもらうには、どうしたらよいと思いますか？

我が国では、個人金融資産に占める株式等の割合が、一向に高まらないという現実がありますので、興味のない学生に関心を持ってもらうためにはどうすればよいと思うか、参加者の皆さんに聞いてみました。任意回答だったにも関わらず、回答者のほとんどがしっかりと回答してくださいました。

せっかくの機会ですので、生の声を紙面の許す限り掲載します。（原文のまま掲載）

- ・若いうちから投資の知識を得ておくこと、実際に投資を行って市場に参加してみることが、将来の資産形成に役立つ経験になることを丁寧に伝えていくこと
- ・将来を強く意識させる。株式投資に興味はあっても、それを始めないのは「今はいいや」後回しにしている人が多い気がする
- ・やはり周りの株式を知らない大人によって植えつけられた株は危ないや博打という考えを改めさせるべきだと思う
- ・株に対してギャンブルのイメージを持つ人が多いので、その固定観念を無くす
- ・今回のようなコンテストや、様々な企画を通して、株式投資についての正しい知識を広め、より敷居が低いものであると周知させることが、株式投資を多くの学生に興味を持ってもらうために重要であると思う。
- ・今の学生には株などに対する忌避感や資産形成への無関心さが目立つので、小学生の内から金融に関する特別講義のようなものを年に数回から十数回行わない限り難しいと思います。
- ・1回株式投資をやってしまったら比較的軽い気持ちで投資ができるようになりそうだが、その最初の1回がなかなか踏み出せないのが、株式投資入門のようなどのように始めればいいのかの手順があればいいと思った。
- ・SNS等で宣伝をするのが良いと思います。株式投資をよく知らない人はそれを危険だと安易に判断しがちなので、株式投資とはどういうものを分かりやすい形で表現すると良いと思います。しかしながら、理解できない人は理解できないのみならず、理解できる人は株式投資について自ら進んで調べているはずなので実際あまり効果は無いように思います。
- ・年金制度がこの先危ういことや、来るべき人口減少社会を鑑み一人当たりの負担が増えることについて発信をします。そして資産形成を行っておけば、未来の暮らしが明るくなることを伝えると良いと思います。現在の若者世代は「さとり世代」と言われ堅実志向も強まっています。リスクとうまく付き合っていくための金融リテラシー教育を誠実にやっていくことが、株式投資への不安を和らげると共に信頼を得ていけると考えています。学生のお金に対する価値観の中に投資を入れ込むことが大切です。自分が働くことによる貯蓄、老後に受け取る年金の他に投資も知っておかねばならないことを自発的に認識させることが、学生に株式投資への興味を持たせるでしょう。

名古屋証券取引所は、我が国資本市場の発展に不可欠な存在である個人投資家の裾野拡大につながるような取り組みを継続していきます。

最後に、本コンテストに参加していただき、アンケートにも回答して下さった学生の皆さんに、お礼申し上げます。